

北の鉄道風景

Train number; 1933D

2023.9.2 11:07

1/800, f/6.3, ISO 200, f=31mm, Daylight/Sunny

8256×5504 Raw

第137回

リザードヘッド Lizard Head

アメリカ、コロラド州、ロッキー山脈の山中に Lizard Head という岩がある。名前の通り、トカゲの頭の形をした岩で古くからの観光名所である。日本では殆ど知られていないが、私は高校時代から憧れていた。

きっかけはリオ・グランデ・サザン鉄道の創設から終焉までを記録した分厚い本だった。見事な写真や図版が全ページにわたって掲載されているのだが、英語が読めないとそれらの解説もできないとあって、ひたすら辞書を

引きながら読み解くことになった。この時、英語とは「勉強」するものではなく、欲望を満たすための「手段」であると悟ってしまい、大学入試にも落ちたが、この考え方は正しかったと今でも信じている。そのリオ・グランデ・サザン鉄道の美しい山岳風景の中でも白眉が Lizard Head を眺望する草原の風景で、旅客列車はここで停車し、乗客たちはしばしその眺めを楽しんだ



リオ・グランデ・サザン鉄道は消滅したが、兄弟分のリオ・グランデ・ウエスタン鉄道は世界屈指の山岳蒸機鉄道として再生した。終点のシルバートンから20kmほど西にLizard Headは今もそびえている。
Durango & Silverton Narrow Gauge R. R. 2012



写真と文＝眞船直樹

とされ、美しい写真とともに紹介されていた。

その後、私は北海道を旅することになるのだが、函館本線然別駅を過ぎた時、思わず目を見張った。列車に襲いかかるように迫る山塊に Lizard Head を見つけたからだ。日本にもあるじゃないか！

赤井川・余市川二重カルデラの形成に関するダイナミックな学説からすれば、銀山から然別にかけて函館本線の西側に連なる山々は、二重カルデラ最外周の外輪山に相当し、百万年単位の歴史があるとされる。そこに立つこの尖塔は、当然シカリ・ペツで魚を捕らえるアイヌ民族の歌を聴き、稲穂峠を越える人々の中に和人の姿を見つけ、鉄道が開通し北海道の大動脈函館本線として成長する姿を見下ろしてきたはずである。それもつい今しがたの一瞬の出来事として。

ならば、この先どんな風景を見ることになるのかと問いたくなる。私が愛読してきたその本の最終ページは Sadly Silent で終わっているからだ。❶